

海外短信



～ メキシコ ～

～メキシコでの拡販を目指して～

ナチメキシカーナ (Nachi Mexicana, S. A. DE. C. V.)
株式会社不二越

不二越がメキシコへの進出を本格化させたのが1982年。ナチメキシカーナを設立し、ベアリングと工具の販売・工具の再研磨事業を展開しています。

日本のおよそ5倍の国土を持つメキシコは、人口が日本とほぼ同じ1億3千万人で、首都メキシコシティには2,000万人以上が住んでいます。ブラジルやアルゼンチンに並ぶ中南米の3大国の1つであること、マヤ・アステカ文明が栄えてできたピラミッドや、カンクンやアカプルコにある高級有名リゾート地などは有名ですが、1968年に開催されたメキシコシティオリンピックが、東京の次に開催されたことをご存知の方は少ないかもしれません。

もともとインディオと呼ばれる原住民が住んでいたメキシコは、16世紀にスペインの植民地となって以降、急速にキリスト教化、主要言語のスペイン語化、混血が進み、現在のメキシコ文化・メキシコ人が作り上げられました。マヤ・アステカ文明の滅亡、原住民の大量虐殺、奴隷化という悲しい歴史を乗り越え、1821年にスペインから独立し、現在のメキシコ合衆国が成立。日本との交流は400年以上続いており、1888年には日本にとって初となる平等条約を結んでいます。近代では、1966年からすでに現地生産をしている日産車がシェアナンバーワンであるなど、300社以上の日系企業が操業しており、ラテン特有の親切で陽気な国民性も相まってとても親日的です。

メキシコの経済は、石油に依存したモノカルチャー経済により、過去に通貨危機・経済危機の荒波を受けてきましたが、1994年のNAFTA(北米自由貿易協定)が発効されてからは、廉価な人件費を活用した製造業への投資が活発となり、近年急速に工業化が進展しています。とくに、BRICS(ブラジル、ロシア、インド、中国)の経済発展が足踏みしている中で、北米および中南米諸国への輸出基地として順調に工業化が進み、経済発展を継続しています。

不二越では、今春から本格稼働を予定している製造会社のナチテクノロジーメキシコと、同所に集結するナチメキシカーナ、ナチロボティックシステムズの3社での事業拡大を行なっていきます。

昨年末からアメリカのトランプ大統領によるメキシコへの冷遇が報じられてきましたが、アメリカの製造拠点としてメキシコが存在すること、アメリカの建築現場等のブルーカラー的な仕事を担っていることなどの実態から、多くのメーカーが様子見の姿勢をとり続けています。以前に比べれば、治安も改善し、今後ますます経済発展の見込まれるメキシコにおいて、現地に根付いた「よき企業市民」をめざしてロボット、工具、ベアリングを3本柱に拡販を進め、強固な事業基盤を築いていきます。



世界遺産に登録されているメキシコシティのピラミッド



ケレタロの水道橋